Title	マルチメディア支援ソフトを利用した映画英語授業：Ｌ３ＳｔａｇｅＥＺＶを利用した授業について
Author(s)	チェンバレン, 暁子
Citation	総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.1, 2011.6：2-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3069
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

研究ノート

マルチメディア支援ソフトを利用した映画英語授業
ー L³Stage EZV を利用した授業についてー

チェンバレン　暁子

国際社会のグローバル化に伴い、英語コミュニケーション能力の必要性が一層高まる中、近年の目覚しいICT（Information and Communication Technology）の発展に伴い、教育の場においても教材や教育機器のICT化が急速に進んできている。

聖学院大学では英語基礎科目に映画英語を教材とした授業を2003年度より開講している。映画を利用した英語授業は学生の興味を引きやすい上、オーセンティックな教材を利用した英語学習であることから開講当初から学生の間で好評な科目である。しかし、ナチュラル・スピードで話されている映画の英語は、比較的聞き取り易い部分を選んだつもりでも多くの学生にとって速すぎて難しいと感じることが多い。従来、映画を使った授業はTV画面や大型スクリーンで映画を見せながら一斉リスニングなどを行うことが多かったが、近年の英語教育の場におけるICT化のお蔭でCALL（Computer Assisted Language Learning）やPCLL（PC Language Laboratory）が普及し、学生一人一人が自分のレベルやペースに合わせてリスニングや発音の練習を行うことが可能になってきた。

以下、2010年４月に4202教室に新しく導入されたマルチメディア授業支援システム「L³Stage EZV」（PCLL）を利用して可能となった事を紹介し、次に学生と教員からのフィードバックと今後の展望について述べる。

I. L³Stage EZVで可能になった主要項目

A.学生側の機能：

① DVDの映画映像・音声を学生各自のパソコンのハードディスクに一斉送信することで、「字幕あり」、「字幕なし」などの映像・音声や異なるシーンを学生が自由に選択して使用できる。

② 学生は、スピード・コントロール機能を使用し、±50％の幅で各自のレベルに合ったスピードで、映画のリスニングやディクテーションなどを行うことができる。（デジタル音声を利用することで、音質に殆ど影響がなくなった。）

③ 発音練習の形態を変えて、発音練習と録音を行うことができる：シャドウイング、リピーティング、アフレコなど。

④ 録音した音声を、直ぐにモデル音声と聞き比べたり、簡易スペクトグラム（波形パネル）で表示したりして、目と耳で自分の音声を確認することができる。

⑤「授業で使われたシーン」または「課題として選ばれたシーン」をUSBに保存して持ち帰り、自宅学習ができる。

B. 教員側の機能：

① 学習者の発音した音声を回収し、ファイルに保存して、後に評価する事ができる。

② アナライザー機能で、小テストや評価ができる。

③「授業以外のPC画面へのアクセスをブロックするための機能」や「教員モニターから学習者の全員のモニターを一瞥できる機能」が加わり、授業への参加を促す機能が付加された。

④ 従来のLLと同様に、学生の発音音声を一人一人、またはペアを指定し、練習している様子をモニターすることができる。

II. 学生のフィードバックと使用状況

2010年度春学期のECA（Cinema ）Iを受講した53名の学生を対象に、L³Stage EZVで、どの機能が役立ったか､学期末にアンケート調査を行った。結果は、以下の通りである。

L^{3}Stage EZVで役立った機能：

「自分のペースで、繰り返し音声を聞いて学習できる」「スピード・コントロール」が共に68％と最も評価が高く、「発音録音機能」（12％）、波形パネル（簡易スペクトグラム）（８％）は、評価が低かった。

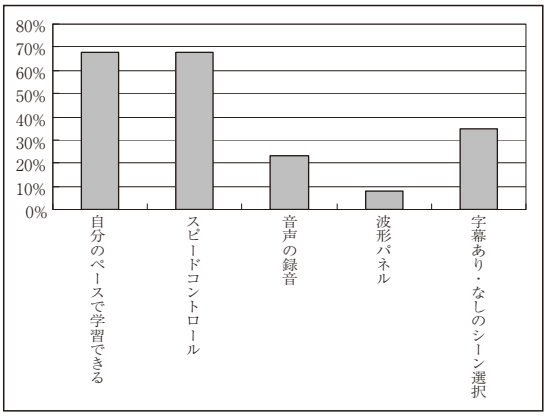

図１　L^{3}Stage EZVで役立った機能

使用状況：

L^{3}Stageの利用には初回から数回、学生が慣れるまで教員のアシスタンスを要したが、その後は教材選択ミスなどのトラブルが時折見受けらる以外、特に問題は見られずスムーズに学習を進めることができた。

III. 教員の映像支援ソフト使用状況と感想

2010年度春ECA（Cinema）を担当頂いた教員５名にL^{3}Stage EZVの使用状況に関して、アンケート調査を行った。結果は、以下の通りである。

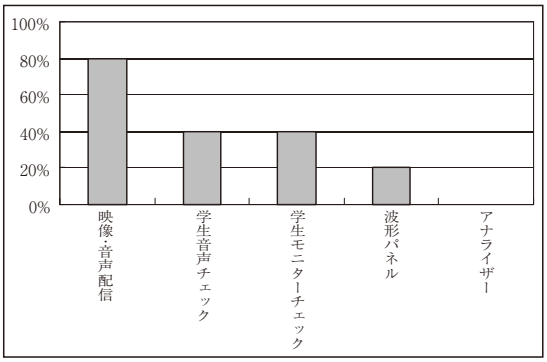

図２　教員が、学期中使用したL^{3}Stage EZVの機能

学生のPCに映像音声を送信する機能を、80％の教員が、ほぼ毎回使用した。一方、スピード・コントロール機能や、音声を録音させモデル音声と比較する機能、波形パネルなどを使用した教員は、予想を遥かに下回った。これらの機能の使用は全て20％にとどまった。

ECA（Cinema）の授業を担当した教員は、学期の初めに、メーカーの使用方法説明会に１時間から２時間出席しているが、一学期利用した後の感想として、「授業で使いこなせるようになるには十分ではなく、操作が複雑なため、慣れるまでに時間を要し、不安を抱えながら授業に臨んでいた」、「頻繁に使い方のフォローが欲しかった」、「役に立ちそうだが、使わない機能が多かった」などの感想が多く聞かれ、授業での教員側を補助するアシスタンスが、相当必要であることと、操作に慣れるまでにかなりの時間を要したことが明らかになった。また、授業内で操作がうまくいかず、授業が中断することが何度かあったり、頻繁に機器のトラブルが発生したことなどの理由から、機器の使用を敬遠した教員が少なからずあったことは大変残念である。（尚、トラブルが生じた際は、８号館から教務課の方々が４号館まで駆けつけて対応して下さったお蔭で、教員は随分助けられたので、ここに感謝を申し上げたい。）

Ⅳ. 今後の展望

L^{3}Stage EZVを利用した授業環境は、「学生一人一人の習熟度に合わせた学習環境を提供できる」ことから、学生には概ね好評であったが、他方で、「教員は不安を抱えながら授業を行っていた」ことや「機能が十分に利用されていなかったこと」も明らかとなった。最新テクノロジーを駆使しながら教員が安心して授業を行うことができるようにするためには、①複雑な機器の操作に慣れるまでのサポートや、②システム上のトラブルが発生した際、素速い対応ができるサポート・システム

を充実させることの２点が肝要であると思われる。また、教員の側も、操作に熟達するために一層の努力が必要であり、日々進歩するテクノロジーを効果的に利用することができるように、更なる工夫と研鑽が求められると言えよう。

参考文献

文部科学省.(2010).『平成21年度学校における教育の情報化の実態に関する調査結果』.
http://www.japet.or.jp/Top/Cabinet/

角山　照彦.(2008).『映画を教材とした英語教育に関する研究』.10-33. 岡山:ふくろう出版

澤田　茂保.(2007).「英語教育から見た技術の発展とIT利用の可能性について」『外国語教育フォーラム』, 1 :37-50.132-147

田中　深雪.(2006).「マルチメディア時代の通訳訓練 –CALLシステムとその有効活用について」.Interpretation Studies, No.6, December 2006, 183-196

東矢　光代.(2001).「CALLが外国語教育に及ぼす影響」(1).言語文化研究紀要　*SCRIPSIMUS*, No.10

チェンバレン　暁子(2011).「PCLLを利用した英語授業」『国際経営・文化研究』Vol.15　No. 2

URL:
Panasonic L³Stage EZVについて
http://panasonic.biz/solution/system/education/edu_campus-02.html
CHIeru[チエル]については、http://www.chieru.co.jp/products/academe.html

（チェンバレン・あきこ　聖学院大学基礎総合教育部特任講師）